

# 県立友が丘高等学校(須磨区友が丘)2年 陸上競技部 柳田 紗希さん

## 「全国高校総体陸上競技大会」女子5000m競歩 **出場**



県立友が丘高等学校(須磨区友が丘)陸上競技部の柳田紗希さん(2年)が、8月2日(木)～6日(月)にスポーツの杜伊勢陸上競技場(三重県)で開催された「全国高校総体陸上競技大会」女子5000m競歩に出場し奮闘した。

### 初の全国大会で力走

「思い切った攻めのレースができた」と振り返る柳田さん。全国大会では予選を突破して決勝へ進出したが、反則(両足が同時に地面から離れた状態)があり、惜しくも失格となった。しかし自身初となる全国の舞台で力走。「いい経験になった。多くの人からの応援にがんばる意欲が湧いた」と感謝を口にする。当日は北海道から祖父も駆けつけたそうで「試合には必ず家族総出で応援に来てくれるので励みになる」と微笑む。

小学1年生の時に4つ上の姉の背中を追いかけて地元の陸上競技部に入部。種目は姉と同じ長距離を選んだ。当時、監督から競歩に向いていると太鼓判を押されたという。中学生の大会に競歩種目がない

ため「高校生になったら競歩に転向する」と小学生のときに決意。転向後は、めきめきと力をつけ、5月の県総体で2位。6月の近畿大会ではベストタイムを1分近く更新して3位となり全国への切符を掴んだ。

同校陸上競技部の池田大監督は柳田さんを「謙虚で努力を惜しまない」と評価する。予選ではゴール手前から脱水症状でふらつきながらもゴールに向かい歩き切った。「気持ちを奮い立たせたレースで、最後は根性を前面に出してました。まだまだ伸びしろがあるので来年は借りを返してほしい」とエールを送る。競歩の魅力は「歩き切った達成感！」と話す柳田さんだが「たまに走りたくなる」と無邪気に笑う。

普段は長距離練習をメインに行い、試合の1週間前から競歩の練習に励む。競歩の大会数が少ないので遠方に出向いたり一般の大会に出場することもあるという。同部の競歩選手は柳田さんを含め3人。一全員2年生で何でも話せるメンバー。練習メニューも自分たちで相談しながら決めていく」と話し、互いに切磋琢磨しあえる存在。柳田さんは陸上に出会い、仲間がいっぱいできたことが何よりうれしいと笑顔を見せる。「これからも競歩と長距離を楽しみながらやっていきたい。今後は駅伝にも挑戦したい」と目を輝かせる。

まずはリベンジを誓った来年のインターハイでの表彰台を目指す。「今回の経験を生かして必ず来年に繋げたい」と決意を新たにしたりした。